

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年03月14日

計画の名称	公共施設の整備改善による安心・安全な住み良いまちづくり											
計画の期間	令和02年度～令和05年度（4年間）											
交付対象	うるま市											
計画の目標	<p>安慶名地区は、戦後、米軍に強制接收された人々が移り住み無秩序にまちが形成され、人口の増加に伴って商店街も形成されうるま市の中心市街地として発展してきた。</p> <p>しかし、近年は周辺地域での大型店の出店等による商店街の衰退や無秩序な市街地形成による家屋の密集化、老朽化により都市機能の低下が著しい状況となっている。</p> <p>このような中、「(旧)具志川市中心市街地活性化基本計画」において、市街地の整備改善および商業等の活性化を一体的に推進するため本地区が中核的な位置づけがなされ、土地区画整理事業による公共施設の整備改善と宅地の利用増進並びに不良住宅の解消等住環境の整備改善を図るとともに商業機能の強化等を地元まちづくり活動と連携し、安心・安全な住み良いまちづくりを目指す。</p>											
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）	98	A	98	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A + B + C + D)	0%

番号	計画の成果目標（定量的指標） 定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2当初	R4末	R5末
1	安慶名地区における居住人口を700人（R2）から1,000人（R5）に増加 安慶名地区における居住人口を把握する。	700人	900人	1000人
2	安慶名地区における世帯を260世帯（R2）から370世帯（R5）に増加 安慶名地区における世帯数を把握する。	260世帯	330世帯	370世帯

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靭化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																										
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況							
		一體的に実施することにより期待される効果															R02	R03	R04	R05	R06					
		備考																								
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	うるま市	直接	うるま市	-	-	安慶名土地区画整理事業	都市再生区画 16.2ha	安慶名地区						98		-							
																	98									
																	合計			98						

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
実施主体：都市建設部 都市政策課	令和7年3月
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 安慶名地区における居住人口が700人（R2）から682人（R7年1月末）に減少した。 安慶名地区における世帯数が260世帯（R2）から297世帯（R7年1月末）に増加した。
定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<p>社会資本整備総合交付金を活用した中部広域都市計画事業安慶名土地区画整理事業においては、清算金徴収交付事務を除き全ての業務が完了した。社会資本総合整備計画の目標については、道路及び公園等を整備することにより、公共施設及び住環境の整備改善を達成し、一定の成果を収めた。しかしながら、本地区内の県道沖縄石川線及び県道栄野比具志川線沿道に商業施設等の出店はあるものの、地元まちづくり活動が少なく、商業機能の強化が未達成であることから、目標の完遂にはさらなる改善が必要であると考える。</p> <p>今後は、以下の取り組みにより、地元まちづくり活動と連携した商業機能の強化を推進していくとともに居住人口の増加に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティを担う自治会と地域経済を担う通り会の協働による魅力あるまちづくりを目指し、地元まちづくり活動と連携した商業機能の強化に寄与できるよう、人材育成を含めた通り会組織の強化に向けた支援を行う。 本地区には、本市が指定管理者制度を導入している「うるま市地域交流センター」及び「うるま市健康福祉センターうるみん」が設置されており、本施設を活用した地域住民や事業者と連携したイベントの開催等、市内外から人を集め、賑わいの創出、地域の活性化に寄与する施設運営を指定管理者と協力して行う。 本地区的県道沖縄石川線においては、幅員6mの歩道を整備し、歩行者が安心・快適に通行できる道路空間を形成しているので、人々が集まる賑わいのある道路空間の創出を目指し、道路管理者である沖縄県と協力して歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）の指定に向けた手続きを進める。 これらの取り組みを通じて、地元自治会及び通り会等の地域コミュニティの担い手と地域住民一人ひとりが直接関与する機会を作り、地域内での繋がりを深めていくことで生まれる多様な活動がさらなる地域の発展に繋がり、地域の魅力を向上させるよう努める。 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	安慶名地区における居住人口		
	最終目標値 1000人	区画整理事業が長期間に及んでいるため、移転補償により一時的に地区外に転出している地権者が高齢化等のため、土地の活用予定が未定となっている箇所があることが要因と考えられる。また、R2当初の現況値から居住人口が減少し、世帯数が増加していることから、子供たちが独立する等の理由により単独世帯が増えたことも要因と考えられる。	
2	安慶名地区における世帯数		
	最終目標値 370世帯	区画整理事業が長期間に及んでいるため、移転補償により一時的に地区外に転出している地権者が高齢化等のため、土地の活用予定が未定となっている箇所があることが要因と考えられる。	

参考図面

計画の名称	公共施設の整備改善による安心・安全な住み良いまちづくり		
計画の期間	令和2年度～令和5年度（4年間）	受付対象	うるま市

